

50カ国以上の留学生と環境を共有し、多様性を育む空間



「全学的国際化」の実現に向けた改革を推進

2015年の国際リベラルアーツ学部(以下iCLA)設立を皮切りに、「全学的国際化」を掲げ大学全体を横断する抜本的な改革を進めている山梨学院大学。19年からは、授業をはじめとした国際化教育の推進・改革を行うグローバルラーニングセンター(以下GLC)を設立するなど、その取り組みを加速させている。留学生をはじめとした学生からも高く支持される改革の現在地とは。iCLAとGLC、2つの組織の取り組みからひもといっていく。

山梨学院大学

教育改革を加速させる「マーケティングの姿勢」

「GLCは、本学が掲げる『全学的国際化』の促進をミッションに、2019年4月の発足以来、さまざまな改革を進めてきました」と語るのは、センター長の齊藤眞美氏だ。GLCは19年度の日本語

科目改編をはじめとし、翌20年度は国際共修科目群の整理・体系化、21年度は英語のカリキュラム改編と、3年にわたって語学科目と国際共修科目の教育課程編成を進めてきた。

特筆すべきは、同大学における国際共修の考え方で、「異なる言語や文化背景を持つ学生たちが、正課科目

や正課外活動で、対話を通じて互いの言語や文化を学び合い、新たな視点や考え方を育む機会を提供するのが本学の国際共修です」と齊藤氏は紹介する。具体的教科目群としては、語学(英語、日本語、中国語)とそれぞれの言語を用いた国際共修を2本柱とし、「国際共修入門」「異文化コミュニケーション」「国際文化交流」「海外文化研修」など30科目以上が用意される。留学生を含め、多様な背景を持つ人々と母語や母語以外の言語で目的に応じた意思疎通ができるようになるのが狙いだ。

齊藤氏は「留学生と日本人学生が同じ教室で学ぶだけでは国際共修は実現しません。そこで、各科目では学生主体のディスカッションやプロジェクト遂行など、対話を積み重ねる工夫を凝らしています」と話す。まさにダイバーシティを生かした環境の中で、さまざま

な学びが得られるに違いない。「ただし」と齊藤氏は加える。「学びの場を用意するだけでは、学生はなかなか参加しません。『学びたい』と思える仕組みも必要です。そのために考案したのが、『YGUグローバル・エキスパート認定』(以下グロエキ)制度です」。

GLCでは日本語オンリーの「Japanese Cafe」、英



グローバルラーニングセンター長 齊藤 眞美 教授

ダイバーシティ化が進む国際リベラルアーツ学部

これまで同大学の「全学的国際化」推進に大きく貢献してきたiCLAにも、昨年大きな変化が訪れた。契機は22年秋からの留学生の入国規制緩和だ。「留学生の来日が可能になり、対面式の授業が本格的に再開されました。教室やカフェテリア、学生寮で、



国際リベラルアーツ学部 学部長 Sanjay JHINGAN 教授

「マンガやアニメに代表されるポップカルチャーに魅了され、日本留学を希望する学生も増えていますが、

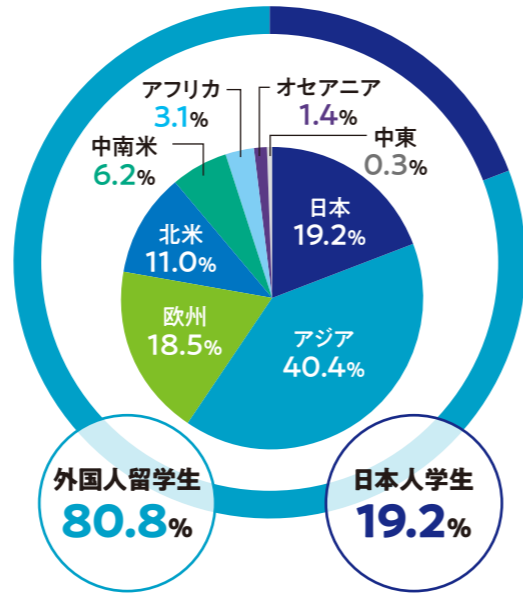
制でありながら、多文化・多国籍の仲間と共に学ぶことができるダイバーシティの豊富さも、ほかではできない経験が大きいと学生たちから好評です」

日本人の学生と留学生同士のリアルな交流も再び見られるようになり、学内にも従来の活気が戻りつつあります」と、学部長のサンジェイ・ジンガン氏は話す。15年の学部発足以降、iCLAは同大学の「全学的国際化」において重要な役割を担ってきた。取り組みの核となる「30プロジェクト」を中心と成り、専任教員の約7割が外国人教員、そして学部生の8割を留学生が占める。これだけ多くの留学生から選ばれる理由として、ジンガン氏は日本語学習とダイバーシティの豊富さを挙げる。「マンガやアニメに代表されるポップカルチャーに魅了され、日本留学を希望する学生も増えていますが、

日本語で授業を受けるハードルが高く、留学に踏み切れない学生が多くいます。iCLAでは日本語学習をゼロから始められ、なおかつ英語によるカリキュラムで学位を取得できる点が魅力的だという学生の声を多く聞きます。また、少数

「多くの国から留学生を迎えられたことで、多様な言語や習慣に触れられる環境の構築が進んでいます。そんな環境の中で課題解決能力、情報リテラシーといった現代社会において不可欠な能力を培うことができます。また他者と協働・連携し、

iCLAに所属する日本人学生・外国人留学生在籍比率 (2023年4月現在)



個人的・社会的な責任感を持ち、倫理的・道徳的な価値判断に基づき、グローバル社会に貢献できる人材を育成していきたいですね」

り、留学をより身近なものにできる制度となっている。行き先もハワイや韓国、シンガポールなど豊富にそろっており、希望に沿ったプログラムを受けられるのも大きな特徴だ。

「全学的国際化」を加速させる、新たな取り組みの推進もすでに始まっている。その一つが、語学研修や異文化体験を主目的とした5日間〜2週間程度の短期海外研修プログラム「Enjoy海外!」渡航プログラムだ。学内規程により最大20万円の支援金制度もあ

「今後も多くの学生、留学生から選ばれる大学であるために、スピード感を持って『全学的国際化』への改革を進めていきたい」と齊藤氏が語るように、同大学の取り組みはより勢いを増していくことだろう。新時代のグローバル人材育成に向けて、GLCとiCLAの挑戦はこれからも続いていく。



グロエキ対象イベント「English FunDay」



「Enjoy海外!」海外異文化体験(ソウル)